

令和4年度第2回伊賀市文化振興審議会 議事録

■日 時／ 令和5年2月21日（火）午後2時00分～午後4時00分

■場 所／ 伊賀市役所本庁舎2階 202・203会議室

■委員

学識経験者		中川 幾郎	帝塚山大学（名誉教授）	出席
文化関係団体	文化芸術振興全般	中村 忠明	伊賀市文化都市協会（理事長）	出席
	俳句文学関係	植田 美由喜	芭蕉翁顕彰会（事務局長）	出席
	美術関係	小島 憲二	市展「いが」運営委員会	出席
公共的団体等	教育関係（小・中学校）	松田 久司	校長会	出席
	教育関係（幼児教育）	岡田 尚子	幼児保育担当	出席
	福祉関係	田邊 寿	伊賀市社会福祉協議会（事務局長）	出席
専門知識を有する者	文化財関係	福田 良彦	伊賀市文化財保護審議会委員	出席
	観光関係	稲垣 八尺	伊賀上野観光協会（専務理事）	欠席
	産業関係	菊野 善久	上野商工会議所（副会頭）	欠席
公募市民		山本 いずみ	-	出席
その他市長が必要と認める者		小阪 のり子	（画家）	欠席

事務局

[伊賀市企画振興部]藤山部長、福岡次長

[伊賀市文化振興課]馬場課長、奥田

オブザーバー

[公益財団法人伊賀市文化都市協会]

服部参事、友田事業課課長、杉本事業課係長、百南事業課係長

■内 容

1 あいさつ

2 報告事項

(1) 意見交換会について

(2) ヒアリングについて

(3) 子どもが出合う文化についてのアンケートについて

(4) 告知媒体への「伊賀市文化振興条例及び伊賀市文化振興ビジョンに基づく事業」の記載について

3 協議事項

(1) 次年度に向けた取り組みについて

(2) 伊賀市における美術博物館整備の検討について

■議事録

1 会長あいさつ

会長	長々と挨拶するより皆様の発言にお譲りしたい。さっそく本題に入る。
----	----------------------------------

2 報告事項

- (1) 意見交換会について
- (2) ヒアリングについて
- (3) 子どもが出合う文化についてのアンケートについて
- (4) 告知媒体への「伊賀市文化振興条例及び伊賀市文化振興ビジョンに基づく事業」の記載について

事務局	(資料1から資料4に基づき、(1)意見交換会について、(2)ヒアリングについて、(3)子どもが出合う文化についてのアンケートについて、(4)告知媒体への「伊賀市文化振興条例及び伊賀市文化振興ビジョンに基づく事業」の記載について、説明。)
会長	各委員から、質問、意見、助言を。
委員	意見交換会で他団体とつながりができ、施設に伊賀焼の作品を展示することができた。 子どもたちが出合う文化についてのアンケートから、中学生になると文化芸術を体験する機会が減り、子ども向けのイベントを開催しても参加してもらえないことがわかる。事業が子どもたちに広がっていない。このことは、単独で活動していてもわからないが、このような場で話し合い連携していければと思う。
委員	子どもが出合う文化のアンケート結果概要で、回答人数は前回より増えてはいるが、回答数としては少ないと思う。回答方法は色々あるが、回答数は多い方が良い。
委員	ヒアリングの内容に共感した。どの事業を事業カードに入れるか迷いがある。取り組みとして良いと思うが、手間がかかると継続しにくい。DXで出来ないか。 アウトリーチ事業は、今やっていることに働きかけを起こす有効なものであった。それぞれで取り組んでいる事業の中で、いかにどう繋げるかが大事。社会資源のデータ活用と、そこへいかに働きかけるか、今後の期待につながる形になったと思う。
委員	子どもが出合う文化について回答率は上がったが、市民全体の文化に対する興味関心は心配。趣味が多様化し、何を大事にしていくのかが変わっているようだ。 子どもたちが公民館活動をしにくくなり、文化を感じられる機会が減っている。生涯学習支援員と一緒に身近な場所で、地域の文化的なことの掘り起こしやプロに触れられる機会などがあればよいと思う。
事務局	アンケートの回答率が低いので、子どもたちに直接聞く方法なども検討したい。 各地区の市民センターには、生涯学習支援員が配置されている。来年度は、生涯学習支援員にも周知し、地域のアウトリーチの需要等を掘り起こし、地元からの文化活動をすすめたい。

委員	意見交換会の周知期間が短く参加できなかった。意見交換の時間も充分ではなかったようで、これからの施行錯誤だと思う。 ヒアリングは、非常に丁寧にヒアリングしている。この気づきを活かしてほしい。 子どものアンケートの回答率に問題はあるが、自分の施設でもアンケートの回答率は低い。継続的に行い今後に活かしてほしい。
委員	幼少期から文化芸術に触れることは大切。機会を持つようにしている。同様に思っているが時間がとれない保護者も多い。保育所等で文化芸術に触れることが出来るとよいと考えている。ボランティアで来てくれる方など、何処に誰がいるのかわからない。一覧があるとよい。
委員	以前からアーティストバンクを立ち上げるよう提案している。行政と文化都市協会で簡単なたたき台を作ってほしい。形にしていきたい。 子ども向けの体験会などに作品を提供していると、粗相を心配されることがある。作品が割れること等を承知の上で提供している。割れることや割れないよう気を付けることも教育。今後もこのような体験会は続けてほしい。
委員	文化事業を長年続けている。一番大事なことはすべての人に機会を与えることだが、事業には費用が必要となる。昨年までの学校や福祉施設での事業には、国の関係機関から支援を得た。市の各課において、年度計画の中での予算措置や事業への参加をしてほしい。計画した事業は続行したい。
オブザーバー	関係各課に声をかける時期が遅れ、参加してもらえなかった事情があった。 アーティストバンクの件で、レンタルアートプロジェクトはどうかという提案もある。結論はすぐには出ないが関係機関と話し合いたい。福祉と文化が手をつなぐことで生じる効果、展望について話し合いたい。
事務局	子どもたちが文化・芸術に触れ、自分にあうかどうかを知ることが大切。そのための機会を増すことに力を入れたい。ぶんとでは全小学校へのアウトリーチ事業を計画している。アウトリーチしてくれる人のリストが欲しいとの話がでたが、ぶんとだけでなく地元の支援員からの紹介も受けられるよう今後に繋げたい。
会長	審議事項より内容豊かに意見がでたので、論点を明確化しておきたい。 アンケートでは、塾や習い事をしている子どもが多い。どんな習い事をしているのか調べると良い。インタビュー調査でよい。自由意見を書いてもらうのもよい。 事業カードは1事業1カード。課題、壁、コスト、最終的な目標は何か、どんな社会的変化が欲しいかを書く、それが事業化。目標数値を何パーセント伸ばしていくか、それが評価。 次の審議会は予算の審議時期になる。年齢階層別の事業展開がわかるデータをいただきたい。事業は、ぶんとが中心を担う団体として行っているが、行政が直接行うものもある。ぶんとにも行政にも願う。 生涯学習支援員について、構成、任命形式、活動内容、効果などを教えてほしい。学校のクラブ活動の支援に関しての助言ももらえるかもしれない。 ふるさと納税の仕組みについて、委員会として提案すべきではないか。指定事業に財

	<p>政と交渉したいと思ってほしい。市民に参加協力を求めてはどうか。</p> <p>アーティストバンクを立ち上げることが緊急課題になってきている。アーティストと各施設をつなぐコーディネーターが必要。養成をしないといけない。アーティストバンクの登録要件、資格、ルール、謝礼等も必要となる。</p> <p>障がい者のためのアートの供給について、障がい者文化芸術活動促進法により、各都道府県に障がい者のアートに関する研究と活動の支援センターが設置されている。</p> <p>三重はどこだったか、どのような支援や助言を受けられるか。障がい者は、文化政策において必須不可欠の対象となっている。</p> <p>助成金は、各種基金や国の直接補助、民間など色々ある。それらから費用を確保することも行政の資質である。</p>
--	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 協議事項

(1) 次年度に向けた取り組みについて

事務局	(資料5に基づき、(1)次年度に向けた取り組みについて説明。)
会長	アウトリーチの点検や成果の検証と、インリーチの可能性の検討を。アウトリーチはうまくいっている。次はインリーチ。アーティストバンクもそろそろ検討を。ふるさと納税の仕組みの改善。生涯学習支援員や生涯学習と文化政策との関係。学校クラブの地域への委託の方法と今後の政策。これらは、次年度に向けた取り組みに関係する。検討をすすめていかなければならない。
委員	生涯学習支援員の研修に年に一回でもよいので参加させてほしい。各地域の取り組みへの支援として俳句教室をやりたい方へ資料やノウハウの提供をしたい。
会長	伊賀は、俳句について世界1の知名度がある。子どもの全国的総本山や俳句大学をつくるなど考えてほしい。連携があれば、企画があれば、という新しい企画が出てくるのを歓迎したい。
会長	次年度、こういう考え方だということについて、意見、質問はあるか。
委員	事業カードは、計画し、実施し、振り返り、次に活かし、事業の課題を読み取るのもの。市民や自主的なサークルの課題を把握するためにも提出してほしい。今後の取り組みに「公益文化団体を通じてサークル団体へ周知する方法を検討する」としているが具体的でない。事業カードは、最後にまとめて出すのではなく、事業前に出し、終了後に振り返るのが良い。
委員	カードの提出にメリットも必要かと思う。市かぶんとで文化の情報のツールを作ってもらえたらと思う。ラインならみんなも使いやすいと思う。
会長	事業カードを市民の啓発やPRに使う目的はない。事業カードは、各部局の担当者が自己点検、自己評価できるための客体化するツール。コスト、目標生産量、生産量、そして社会的変化、社会的変化目標まで書く。例えば、目標はホールを満席にすることではなく、ホールに来て知識や素養を備えた市民の数を増やすこと。何を客観的に変換モデルにしているかを自問自答してほしい。行政職員は民間の事業もヒアリングし調査しないと、本当のまちの文化事業の総ボリュームがわからない。何が足りて

	いて何が不足しているのかということ。
委員	よくわかった。基本的に行政や公益財団法人は書き、民間については行政がヒアリングしながら書くと、二段階で進めていくのであれば、行政も方針にむけて十分に組み込んでいけると思う。
会長	行政は、どのような公益的な変化を求めるのか。例えば、対象者数を母数とし、その上にどれだけの分子がのり、どれだけ経験してもらえるか、どれだけの分子を増やしていくかという精密な目標性を持つということ。
事務局	「今後の取り組み」では、行政や公益財団法人はまず書く、地域やサークル団体も書けるところは書くよう周知を図る。伊賀市全体で行われている文化事業を集約する目標があり、それを広めて行くという主旨。

(2) 伊賀市における美術館博物館整備の検討について

事務局	(資料6に基づき、(2) 伊賀市における美術館博物館整備の検討について説明。)
会長	かなり大きな話で、3つ施設がありそれぞれに歴史があるようで、当審議会としては、どのように関わり、スタンスはどうとったらよいか。
事務局	文化振興審議会では方向性について意見をいただくとありがたい。美術博物館の検討委員会で検討しおおよそ決まれば、この審議会でご意見をいただきながら、新しい美術館の検討に反映させていきたい。
会長	この審議会にとって、美術館建設はドストライクな施設。新芭蕉翁記念館は、伊賀市のシビックプライド、シティプロモーションとして文化政策に欠かすことのできない施設。博物館は所掌事項ではあるが、文化財保護審議会が前面に出て、その意見を基に都市政策全体のバランスをとってほしいという意見を言えると思う。
事務局	検討委員会で検討したことに審議会委員の視点からご意見をいただきたい。
会長	まずは検討委員会で専門的な先生方に検討いただき、この審議会は第三者的に意見を言う、そういうスタンス。
事務局	美術館博物館を検討していく上で、市として設立準備室を設け、専門的に進めていこうと考えている。
会長	建物は3つそれぞれか。
事務局	1つの建物に3つの機能を入れるか、別々がよいか、それも含めて検討する。
会長	意見や質問はあるか。 以上で議事を終了する。